

山梨大学

【N040 山梨大学】

	山梨大学 工学分野
学部等の教育研究 組織の名称	工学部（第1年次:365 第3年次:20） 大学院医学工学総合教育部（M:253 D:76）
沿 革	<p>大正13（1924）年 山梨高等工業学校創立</p> <p>昭和19（1944）年 山梨工業専門学校に改称</p> <p>昭和24（1949）年 新制山梨大学工学部設置</p> <p>昭和40（1965）年 大学院工学研究科修士課程設置</p> <p>平成4（1992）年 大学院工学研究科博士課程設置</p> <p>平成14（2002）年 山梨医科大学と統合し、山梨大学設置</p> <p>平成15（2003）年 大学院医学系研究科と大学院工学研究科を改組し、大学院医学工学総合教育部・研究部を設置</p>
設置目的等	<p>山梨大学工学部・大学院医学工学総合教育部・研究部（工学系）の前身である国立山梨高等工業学校は、工業に従事すべき者に高等の学術技芸を教授することを目的として大正13年に設置された。</p> <p>昭和19年に山梨工業専門学校に改称の後、昭和24年に山梨大学工学部として承継された。</p> <p>昭和40年には、我が国並びに世界の科学技術の発展に寄与する中枢的技術者の養成を目的とし大学院工学研究科修士課程を設置した。また、平成4年には、幅広い基礎力と総合的・実践的な技術力を身に付けた人材の養成と社会人技術者の高度な再教育を目的として博士課程を設置した。</p> <p>平成14年に全国に先駆けて山梨医科大学と統合し、山梨大学工学部・大学院工学研究科として承継された。平成15年には、医学・工学のそれぞれの分野で培った実績を基盤に、それらの融合と協働による新しい教育研究を通じた人材育成を行うことを目的として、大学院医学系研究科と工学研究科を改組し、大学院医学工学総合教育部を設置した。</p>
強みや特色、 社会的な役割	<p>山梨大学においては、地域の中核を担う人材、世界で活躍する人材の養成を通し、社会の発展に寄与することを目指し、教育、研究、社会貢献に取り組んできており、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。</p>

- 未来世代を思いやるエンジニアリング教育の理念のもと、基礎的・専門的学力、論理的な表現力やコミュニケーション能力、及びエンジニアリングデザイン能力を身につけた機電系、化学系等の高度な技術者の育成の役割を果たすとともに、土木環境工学分野、グリーンエネルギー変換工学分野等において、国際的視野を持って創造的に研究・開発を推進し、社会を牽引するイノベーション創出に貢献できる人材育成の役割を果たす。
- 統合能力型高度技術者養成プロジェクトや学科横断的PBLものづくり実践教育、クリーンエネルギー特別教育プログラム等の特色ある教育や、国際的通用性のある認証プログラムを積極的に推進してきた実績を生かし、グローバルに活躍できる工学系人材を育成する学部・大学院教育を推進する。
- 燃料電池実用化に向けた材料開発等の世界トップレベルにある「クリーンエネルギー研究」や、山梨県の地場産業に関連した結晶材料開発・新機能創成の「クリスタル科学研究」等の材料科学分野、水災害軽減や廃水の適正管理等に挑む「総合水管理研究」を中心とする土木環境システム分野、迅速がん診断支援装置の実用化開発等の医工融合研究等の高い研究実績を生かし、社会の発展に寄与できる優れた研究を推進する。
- 「燃料電池ナノ材料研究」等受託研究の受入れ金額では高い実績があり、今後とも我が国の産業を支える実践的な研究の取組を一層推進する。また、学校数あたりの採択率が全国一である山梨県のスーパー・サイエンス・ハイスクール指定校の研修受入れや出前講義等を通じて、高校生への理科教育に貢献する。
- 山梨県や首都圏を始めとする周辺地域に勤務する社会人を博士課程に受入れてきた実績を生かし、大学院への社会人受入れを促進するとともに、地域防災教育・ICT技術等に関する地域の技術者向け講習会等を展開する。